

HAB制作ドキュメンタリーが受賞 第31回PROGRESS賞 奨励賞



北陸朝日放送(本社:石川県金沢市、以下HAB)制作のドキュメンタリー「能登2024～震災と人間～」が、テレビ朝日系列24社の番組審議会の代表者が選考する「第31回 PROGRESS賞」の奨励賞を受賞しました。

PROGRESS賞は、1995年にテレビ朝日系列24社の番組審議会委員が推奨する最高の賞として、番組審議会委員の発意により、放送番組のより一層の質的向上・系列各局の制作力の向上に資するものとして制定されました。HABの受賞は、2019年の「言わねばならないこと～防空演習を「嗤った」男・桐生悠々～」で最優秀賞受賞以来、6年ぶり6回目です。

【第31回PROGRESS賞 奨励賞】

「能登2024～震災と人間～」

【番組概要】

最大震度7を観測した能登半島地震から1年。奥能登豪雨の二重災害に見舞われた被災者もいた。故郷に帰りたくても仕事がない、集団避難の苦悩を抱えた人。輪島朝市の焼失により選択を迫られた人、豪雨で犠牲になった孫との約束を守る祖父、亡き家族を思いマラソンに挑む男性、「50時間後の救出劇」その後…。悲しみや不安の中でも「明日」への希望を持って生きている人がいた。

あの日から1年、それぞれの明日へ。震災と人間の営みを見つめたドキュメンタリー。2024年12月31日(火)午前10時15分～11時45分放送。



亡き家族とともに金沢マラソンに挑んだ大間圭介さん（珠州市出身）

【番組概要】

審査員からは「最愛の家族や住まい、仕事を一瞬で失った人々が、それぞれの悲しみや苦悩、不安、そして再生への希望を抱きながら前向きに生きる姿を多角的に捉えていた。さまざまな人物のエピソードを通じて、単なる悲劇だけでなく、復興への意志や地域文化の力も浮き彫りにしていた。地元局ならではの粘り強い取材と信頼関係に基づき、被災者の生の声を記録し続けており、視聴者に「自分ごと」として災害を考えさせる力を持った番組だった」と評価された。



豪雨災害で孫を失った蒔絵師の喜三誠志さん（輪島市）

【プロデューサー 黒崎正己 コメント】

能登半島地震では元日の発生以来2カ月半にわたりANN取材本部が設置され、テレビ朝日をはじめ系列各局から取材応援をいただきました。今回の受賞はひとりHABだけでなくANNの震災報道に対する評価と受け止めています。

ドキュメンタリーは「ひとりの人物」「ひとつのテーマ」を通して描くのが王道ですが、今回は被害の甚大さに圧倒されたこともあり、被災者の声をより多く記録することを念頭に1年間、局員総力で取材したニュース企画をもとに構成しました。

このたび、プロGRESS賞で評価されたことは、視聴者・市民の皆様からの「震災報道をこれからもがんばれ」というエールと受けとめ、被災地・能登の取材を続けます。



故郷を思いながら避難先で就職先を探す野口成二さん（輪島市）